

You, Unlimited



RYUKOKU
UNIVERSITY

龍谷大学
文学部

2027

Faculty of

Letters



Master Your Words

すべての基盤となる 「言葉」を学び、 「言葉のプロフェッショナル」へ

言葉によるコミュニケーションは、社会的にもっとも重要な行動のひとつ。

仏教も歴史も言葉を抜きに語ることはできません。

つまり、専門的な学びのすべてに共通してくるのが文学部の学びです。

学問の基盤としての言葉を深く学修すれば、

すべての専門的な学問に通じることも可能です。



Project #1

▼解決をめざす「社会課題」

歴史・文化の伝承

池田 天さん

歴史学科 文化遺産学専攻 4年生
(大阪府立槻の木高等学校 出身)



江戸の「遊び」に学ぶ 豊かな時間の紡ぎ方 学生たちの情熱が歴史と現代の心をつなぐ

46年の思いを継承し 学芸員の責務を体感する

博物館実習は、46回を数える「十二月展」の開催をもって完結します。4年生が主体となるこの展示会は、テーマ設定から展示物の選定、資料の借用交渉、展示物の集荷、会場の構成、広報に至るまで、学芸員の仕事を自分たちの手でゼロからつくり上げる「学びの集大成」です。準備期間中、約20名のメンバーたちで何度も議論を重ね、学術的な正しさを守りながら、いかに来場者に楽しんでもらえるかを追求しました。しかし、教科書で学んだ知識を「実践」へと移すプロセスは、決して容易ではありません。普段は味わうことのできない貴重な資料を扱う緊張感や、学術的な正しさなど、現場でないとわからない学芸員の責任を肌で感じました。龍谷ミュージアムという本格的な展示施設で、自分たちが調べ上げた成果の一つの「形」にまとめ上げた経験は、単なる実習の枠を超え、文化財を扱う者の責任感と自覚を養ってくれました。

展示と体験の両軸で感じる 京・大坂の「遊び」

2025年度のテーマは「ちょっと一服、ええ遊び〜江戸時代の京・大坂娯楽案内〜」です。歌舞伎をはじめとする「芸道の舞台」、出版文化を伝える「本の見世」、旅への憧れを誘う「名所名物の旅」、そして「遊びの輪」の四章を通じて、江戸の活気ある社交の場を再現しました。当時の上方は政治の中心地ではなくなったものの、町人文化の中心地として独自の美意識と活力を保ち続けました。私たちは調査を通じて、当時の人々がいかに主体的に楽しみを見つけ、日々の暮らしを彩っていたかを知り、その精神文化の多彩な魅力に深く感銘を受けました。展示では、資料を通じて当時の人々の暮らしや楽しみに触れていただくだけでなく、花札や投扇興などの体験コーナーも設置しました。上方文化がもつ特有のエネルギーを現代の視点から再発見し、現代にも息づく娯楽の数々を改めて楽しむきっかけになればと考えたからです。



消費される都市に 文化財が処方する「心の豊かさ」

私たちが学ぶ京都は現在、「オーバーツーリズム」という大きな課題に直面しています。街が観光資源として消費され、地域の固有の文化や住民の静かな生活が脅かされている現状に対して、私たちは博物館こそが「深い時間」を提供し、地域の価値を再発見できる場所だと考えました。江戸時代の人々は、さまざまな制約があるなかでも「一服」のゆとりを大切に、遊びをとおして豊かな情緒を楽しんでいました。この十二月展を通じて、上方の人々の暮らしや精神文化に触れてもらうことは、単なる懐古ではありません。現代のストレス社会を生き抜くための「心の処方箋」を提示する試みでもあります。歴史を知ることで地域への愛着をもち、自分たちが暮らす場所を誇りに思える。それこそが、街が「消費地」になるのを防ぎ、地域のアイデンティティを未来へつなぐために学芸員が果たすべき、重要な社会的役割なのだ実感しています。

文化を伝える架け橋として 過去と今、未来をつなぐ

この実習で得た最大の財産は、一つの目標に向かって対話を重ねるチームワークと、歴史や文化を次世代につなぐ喜びです。開催までは、資料を借り受ける際の緊張感や、展示ケース内での微細なレイアウト調整など、現場でしか学べない苦労の連続でした。しかし、来場者が一点の資料の前で足を止め、解説を読みながら江戸時代の粋を感じているのを見て、これまでの努力が報われた気がしました。私たちの役割は、資料がもつ魅力を、現代を生きる人々の心に届く形で「橋渡し」し、人々が自身の地域を誇りに思えるきっかけをつくることなのかもしれません。歴史を敬い、その価値を丁寧に伝える姿勢は、これから先の人生においても大きな指針となるはずです。展示に関わってくださったすべての方への感謝を胸に、これからも文化を愛し、その大切さを発信し続ける存在でありたいと思います。

Project #2

▼ 解決をめざす「社会課題」

京都の地域課題

小野嶋 莉璃奈さん

仏教学科 3年生
(山口県立下松高等学校 出身)



宮口 貴さん

歴史学科 仏教史学専攻 3年生
(大阪府 箕面自由学園高等学校 出身)



観光を切り口として地域課題の解決策を探り 記事を通じて社会に発信する

文学部の学びの視点から京都の地域課題と 寺院の社会的役割を考察 (小野嶋さん)

古くから地域コミュニティの中心であった京都の寺院が、現在は観光地として注目されています。社会的変化によって街が活性化する一方で、オーバーツーリズムによる地域住民への影響が懸念されています。京都市内で顕著に見られる居住空間の観光地化を、住民や寺院はどのようにとらえているのか。このPBL演習では「京都の観光とお寺」をテーマに取り上げ、観光という切り口から地域課題の解決策を探ります。寺院や地域住民への取材交渉からWeb記事の作成までを私たち学生の手で完結させるのも、この演習の特徴です。受講生同士のコミュニケーションを重視して、主体的にワークショップなどを行い、合意形成しながら進めています。観光が地域課題の解決とどう結びつくかはまだ未知数ですが、取材から見える現状を文学部の学びの視点から考察し、社会に周知するこの取り組みが、京都の課題解決の一助になればと考えています。

学生でも社会を動かせる プロの視点で観光公害の深層に迫る (宮口さん)

京都が抱えている「オーバーツーリズム」は、単なる混雑だけの問題ではありません。この演習では、新聞記者や写真家の方からプロの取材手法を学び、寺院への取材を通して、その背後にある環境公害や地域住民との不調和といった、見えない課題に迫りました。問題を解決に導くには、政治・住民・寺院が連携して注意喚起を促し、地域住民に利益をもたらす施策を打ち出さなければなりません。全員が足並みを揃えるには、現状を広く正しく認知してもらうことが不可欠です。そこで私たちはメディアの役割を担い、Web記事を通じて社会に問いかける活動に取り組みました。膨大な情報から本質を見抜き、他者を尊重しながら議論を戦わせたこの経験は、「学生でも社会を動かせる」という確かな自信になりました。取材で培った「発信力」を活かし、これからも社会課題の解決に主体的にかかわっていきたいと思います。





知的好奇心と探究心に導かれ 東洋寺院造営の深層を掘り下げる

東洋史学専攻は、漢字文化圏からイスラーム文化圏までの広大なアジア世界を対象とする、本学を象徴する学びの場です。私が取り組んでいるのは、仏教寺院がどのように造られていたのかという問題です。南アジアで生まれた仏教はアジア全域へと広がり、日本にも伝わりました。その広がりを象徴するのが各地で造られた仏教寺院です。仏教寺院は地域や時代が異なっても共通する空間構成や規則を備えています。こうしたルールが、建設の現場でどのように共有されていたのかを明らかにしたいと思い、古代インドおよびガンダーラ地域の寺院に刻まれた碑文や出土文書、建築遺構を手がかりに研究しています。そこから造営に携わるさまざまな立場の人々がどのように関わりながら寺院空間を形成していたのかを検討しています。史料から当時の人々の営みを辿る作業は、文字の向こうにいる彼らと対話しているようで、とても楽しいです。

言語の壁を越えた先にある追体験 研究という道が、私の世界を広げていく

東洋史学専攻での学びの醍醐味は、漢文やペルシア語、アラビア語などで書かれた史料を通じて当時の世界を追体験できる点にあります。多様な言語の予習復習は大変でしたが、日常とは異なる生活や文化、歴史に触れる経験は、世界の見え方を大きく広げてくれました。2027年度から東洋史学専攻の学びの対象が地中海地域まで拡大することで、ユーラシアのつながりを捉えられる環境が整います。文化や宗教、技術は、一つの地域の中だけで完結するものではなく、人々の移動を通して広がり、形づくられてきました。そのような広い視野を養うことができる点は、専攻の大きな魅力になるでしょう。大学での学びは就職のための準備期間にとどまるものではありません。ぜひ未知の領域に飛び込み、知識を蓄え、問いを生み出し、考えることの楽しさを感じてください。東洋史学専攻には、そうした挑戦を受け止めてくれる土壌があります。



Project #3

解決をめざす「社会課題」▼

多元的な世界観の探究



モンパル ゴンザレス 瑛真さん

歴史学科 東洋史学専攻 2024年卒業
文学研究科 修士課程 東洋史学専攻 2年生

ユーラシアの広大な歴史をつなぐ
東洋史学がひらく、知の最前線

Interview

インタビュー

2027年4月、新しい「仏教学科」へ “仏教”の学びを活かし現代社会の諸課題に対応

私たちが生きる現代社会は、国際紛争や気候変動、環境破壊、格差と貧困、AIと倫理など、複雑で多様な課題を抱えています。

新設される「仏教学科」では、龍谷大学が培ってきた仏教・真宗の学びを基盤に、国際社会、福祉・医療、文化をキーワードに、こうした現代の諸課題に向き合える人材を育成していきます。

宗教のイメージを超えた 「学問」としての仏教を 歴史や美術から解き明かす（山下さん）

「仏教＝僧侶や信仰者のためのもの」というイメージがあり、入学前は思想を押しつけられるのではという不安すらありました。しかし、その不安は良い意味で裏切られました。仏教とは、2000年以上もの間、人々が人生をどう生きるかを問い続け、その答えが積み重なって形づくられた「学問」だったのです。授業では、インド哲学から仏教美術、日本の「月見の兎」や「いろは歌」といった身近な風習まで、幅広い分野を学びます。

私が現在取り組んでいるのは、滋賀県にある日吉大社の研究です。神社なのになぜ神様と仏様が一緒に祀られているのかという、素朴な疑問が出発点でした。建造物一つをとっても、そこには当時の天台宗の影響や人々の願いが色濃く反映されています。これらを解明するには、歴史、美術、宗教的背景など多角的な知識が必要です。先生方の手厚いサポートのおかげで、苦手だった漢文などの史料読解も少しずつできるようになり、謎を解き明かす楽しさを実感しています。仏教学の学びは、探究心のある学生にとって最高のフィールドです。現代に残る文化や風景の「なぜ」を突き詰め、人間の本质や歴史の根源に触れるおもしろさを体感してください。

仏教学科の3つの学びの領域



※2027年4月「仏教学科」に3領域を新設

山下 瑞季さん

3年生
(滋賀県立石山高等学校 出身)

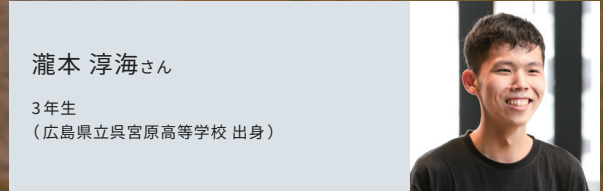




**仏教の歴史を紐解き
浄土真宗の視座から
身近な事象をとらえ直す**（瀧本さん）

お寺の息子に生まれるも、入学前は真宗の教えをほぼ知らず、正直なところ「仏教を追究したい」という強い意志があったわけではありません。しかし実際に学んでみると、日常のことばの中に仏教の教えが息づいていたり、現代の社会問題とも深くかかわっていたりと、その領域の広さと奥深さに驚かされました。その一つが、私の研究テーマである「馬の供養」です。趣味の乗馬について先生と話すなかで「馬と日本人の歴史」という視点をいただき、研究がスタートしました。本来、浄土真宗には「供養」という概念が希薄だとされています。それでも歴史を紐解いてみると、軍馬や競走馬への慰霊など、人と動物との深いかわりが見えてきます。

一見、仏教とは無関係に思える趣味や興味も、仏教というレンズを通すことで、歴史的背景や生命倫理といった深い問いにつながります。真宗学の学びは、単に教義を覚える場所ではありません。現代社会のあらゆる事象を「真宗」という視座から見つめ直し、自分なりの答えを探究する学びの場です。ここで得た思いがけない縁や多角的な視点は、将来どのような道に進んでも活きる財産になると確信しています。



瀧本 淳海さん
3年生
（広島県立呉宮原高等学校 出身）

**「強さ」を問う
個々の「痛み」から
これからの社会を考え続ける**（内手准教授）

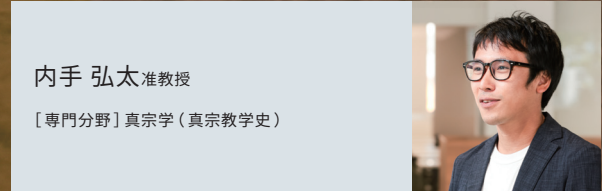
なぜ、インドで生まれた仏教が、2500年もの時を超え、今なお多くの人々に受け継がれているのでしょうか。その背景には、科学や経済の発展だけではどうしても解決できない、個人の、そして社会の根源的な「苦しみ」の存在があるように思います。

仏教は常に、その苦悩の只中で「人間とは何か」を問い続けてきました。浄土真宗の宗祖である親鸞もまた、立派な聖者としてではなく、悩み多き一人の人間として、人々の苦しみを直視し続けた先駆者です。

新しくなる仏教学科では、「真宗」「仏教」「社会応用」の3つの領域を横断し、この問いを深めていきます。仏教を学ぶことは、知識を詰め込むことではありません。それは、「強さ」ばかりが優先される社会のあり方を問い直し、置き去りにされがちな個々の「苦しみ」から、「人間はどうあるべきか」を考え抜く営みだと思います。

私は、仏教を、人間の抱える悲しみや痛みを決して否定しない「まなざし」であるにとらえています。その痛みを受け止めることこそが、苦しみの只中にある人々を決して取り残さない社会を築くための、最も確かな土台になると考えています。

新たな仏教学科では、安易な「正解」は求めず、一人ひとりの「苦しみ」や人間が抱える「痛み」を起点に、どう生きるべきかを考え抜く。その思索のプロセスに、これからの時代を生きる私たちを支える力がある。そう私は考えています。



内手 弘太 准教授
【専門分野】真宗学（真宗教学史）

Hot Topics

文学部の取り組み

1

2027年4月、文学部での“学び”が広がります

真宗学科・仏教学科を統合し、新たな「仏教学科」へ

仏教学科

真宗領域

親鸞が顕かにした浄土真宗の教義を探究

仏教領域

インドに発祥し世界の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を学修

社会応用領域

社会課題に取り組み新たな価値を創造

3つの領域を横断しながら、現代社会の諸課題に対応できる人材に

新たに展開する「社会応用領域」

仏教学科での学びを生かし、「国際社会」「福祉・医療」「文化」等に関する現代の社会課題へと応用していく知識や思想を身につける。

“ユーラシア”を広域に学べる歴史学科東洋史学専攻へ

歴史学科東洋史学専攻

これまでの東洋史学専攻での学びをもとに2コース制に再編し、ユーラシアの広大なエリアをカバーし、世界史を視野に入れた学びの機会を提供。

ユーラシア西部地域史コース

地中海地域（北アフリカを含む）、西アジア、中央アジアなどの地域を対象として学ぶ

ユーラシア東部地域史コース

中国を中心とする東アジアと、モンゴルをはじめとする内陸アジアなどの地域を対象として学ぶ

今回の再編に合わせ、ユーラシア地域の考古学、美術史の学びも追加しさらに多彩な学びを展開。

有形・無形を扱う総合的な文化遺産学

歴史学科文化遺産学専攻

総合的な文化遺産学を展開

有形文化遺産学

無形文化遺産学

これまで歴史学科文化遺産学専攻が培ってきた、「物（もの）」である有形文化財を中心とした学びに、「無形文化遺産学」[※]を追加し、有形文化財・無形文化財（民俗文化財を含む）を取り扱う、総合的な文化遺産学に発展させます。

[※]無形文化遺産とは、口承による伝統および表現、芸能、社会的慣習、儀式および祭礼行事、自然や万物に関する知識および慣習、伝統工芸技術などを指します。なお、国際条約である「ユネスコ無形文化遺産保護条約」にもとづき、日本からは23件が登録されています。

2 重要文化財に指定された建物で、 歴史を体感しながら学ぶ

京都大宮キャンパスは、歴史と自然に包まれた落ち着いたあるキャンパスです。1、2年生は京都深草キャンパスで学び、3、4年生は京都大宮キャンパスで専門性を深めます。静けさと品格のなかで、じっくりと学びに向き合うことができます。

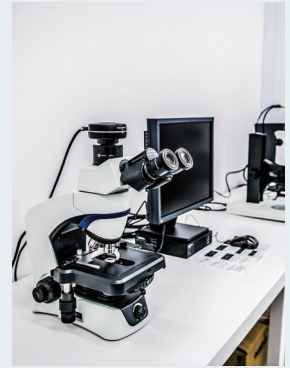


3 最新の機器を備えた 「文化財科学室」

文化財科学室には、電子顕微鏡やエックス線透過装置をはじめとする最新の分析機器が設置され、「文化財の臨床医」に必要な基礎を学びます。フィールド調査が可能な機器も数多く揃えられており、現場での実践的な調査方法も学べます。



文化財科学室



光学顕微鏡



マイクروسコープ



携帯型分析機器

4 歴史的な一級資料が揃う国内有数の学びの「宝庫」

龍谷大学は国宝や重要文化財に指定されている貴重な資料や書物、特別書を多数所有しています。隣接する大宮図書館は、国宝『類聚古集』や世界最古級の世界地図『混一疆理歴代国都之図』、奈良絵本『竹取物語』、『解体新書』などを所蔵しています。第一級の史資料を数多く所蔵する本学は、学生にとって本物に触れられる「宝庫」です。



奈良絵本『竹取物語』



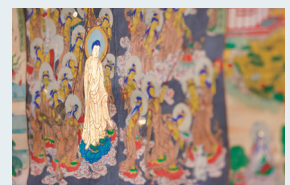
『解体新書』初版本



『釈迦御一代記図会』



英文版反省会雑誌『The Hansei Zasshi』



『地獄・極楽図絵巻』

4-Year Studies

学部サイト



4年間で何を学ぶ？

バラエティに富んだ5学科6専攻の学び

仏教学	仏教学科 ※2027年4月、3領域を新設 真宗領域 親鸞が頭かにした浄土真宗の教義を探究。 ● 中学校教諭一種免許状(宗教) ● 高等学校教諭一種免許状(宗教)	仏教領域 インドに発祥し世界の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を学修。	社会応用領域 社会課題に取り組み新たな価値を創造。
	哲学・教育学	哲学科 哲学専攻 哲学者たちの思考の軌跡と、自らの考えを論理的に表現する方法を幅広く学ぶ。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)	哲学科 教育学専攻 総合的な人間学を研究のベースとし、教育学を専門的に学修・研究する。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民)
歴史学		歴史学科 日本史学専攻 古代 中世 近世 近代 現代 独自の視点から歴史事実を解明し、社会や自分の生き方についても考える。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	歴史学科 仏教史学専攻 仏教の歴史を知ることで人間とは？ 仏教とは？ という本質的な問いを探究する。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
	文学・言語学	歴史学科 東洋史学専攻 漢字文化圏からイスラーム文化圏まで、アジアの歴史・文化を学び、研究を深める。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)	歴史学科 文化遺産学専攻 現代まで引き継がれてきた文化遺産を分析・研究し、将来に残して活用する技術と方法を実践的に修得する。 ● 中学校教諭一種免許状(社会) ● 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
文学・言語学		日本語日本文学科 古典文学コース 近代文学コース 情報出版学コース 日本語学コース 豊かな言語感覚や感受性、論理的思考能力を磨き、「ことばのプロ」を育成する。 ● 中学校教諭一種免許状(国語) ● 高等学校教諭一種免許状(国語)	英語英米文学科 英文学コース 米文学コース 英語学コース 英米文化コース 実践的な英語力を身につけ、言語学、文学、文化を専門的に学ぶ。 ● 中学校教諭一種免許状(英語) ● 高等学校教諭一種免許状(英語)

幅広い学問領域を横断して学修できるオーダーメイド型カリキュラム

自分の興味にあわせて学科・専攻の境目なく、さまざまな科目を体系的に履修できます

文学部では、仏教学、哲学・教育学、歴史学、文学・言語学を学ぶ5学科6専攻を設け、それぞれの学問領域を系統的に学修できるよう、1年生から専門的な科目も配置するなど、体系的なカリキュラムを展開しています。また、自分の興味・関心にあわせて学科・専攻の枠を超えて学べるオーダー

メイド型カリキュラムを導入し、自分の学科・専攻以外の科目を自由に選び、学修することも可能です。文学部での4年間の学びで、本学が所蔵する貴重な文献・資料なども活用しながら、幅広い教養と各学科・専攻の専門分野に関する深い知見を修得し、多面的・総合的な人間理解をめざします。

	1年次	2年次	3年次	4年次		
4年間の流れ	基礎的なリテラシーを修得	専門的な学修へ	「問い」の発見をめざす	卒業論文をまとめあげる		
						
アカデミックリテラシー 4年間を通して身につける	読む力 語学力を活かし、難解な用語と格闘しながら専門文献を読む経験を重ねます。文献上の情報を正確に読み解く力を養い、知識を有機的に蓄積していきます。	調べる力 研究課題に必要な文献・資料を収集・整理するだけでなく、学外のフィールドワークに参加したり、海外に留学して調査を行ったりします。	考える力 文献・データを客観的かつ批判的に読解・分析しながら、創造性のある考察ができるよう、徹底的に考え抜きます。	書く力・発信する力 論文の書き方、プレゼンテーション・スキルを鍛え、伝える力を養います。	議論する力 ゼミの先生・仲間は、良き理解者であり、越えるべき壁にもなります。自分の研究成果を高めるための議論は白熱必至。文字どおり“切磋琢磨”です。	卒業論文
教養科目	仏教の思想・外国語科目・教養科目					
専攻科目	基礎演習（仏教学科は入門ゼミ）		演習Ⅰ 普通講義 講読 特殊講義	演習Ⅱ / 卒業論文		

オーダーメイド型カリキュラムの例

例1：美術を手掛かりに文化遺産の歴史と文化を学びたい

歴史学科文化遺産学専攻 専攻科目

+

- 仏教学科 仏教美術入門A
- 歴史学科日本史学専攻 古文書学A
- 歴史学科東洋史学専攻 美術史(アジア)B

例2：日本と外国の文学・歴史を比較し、日本文学の学びを深めたい

日本語日本文学科 専攻科目

+

- 歴史学科日本史学専攻 日本史概説ⅠA
- 歴史学科東洋史学専攻 中国文化史Ⅰ
- 英語英米文学科 英語圏文学概論A

例3：仏教について多様な切り口で学びたい

仏教学科 専攻科目

+

- 哲学科哲学専攻 宗教学概説A
- 歴史学科文化遺産学専攻 文化遺産学概論B
- 日本語日本文学科 仏教文学A

仏教学科

Department of Buddhist Studies

長く培われてきた仏教・真宗の学びを
現代社会に生かす

Focus 学びのポイント

3つの領域を横断し網羅的に学ぶ

仏教学科では、真宗領域・仏教領域・社会応用領域の3つの領域を横断し網羅的に学んでいきます。1～2年生は、「基礎共通科目」として3領域の学生と一緒に学びます。3年次以降は、それぞれの所属領域の学びの特徴を生かし、学修を進めていきます。

[講義紹介(3領域共通)]

入門ゼミ

大学生や社会人に必要なスキル「聞く力」「考える力」「議論する力」「調べる力」「読む力」「書く力」を基礎から学び、修得をめざす。

仏教学への招待A・B

真宗・仏教・社会応用の3領域の教員がそれぞれの専門の魅力を紹介しながら、仏教学という学問の広がりや奥深さを学ぶ。

真宗領域 親鸞が顕かにした浄土真宗の教義を探究

親鸞の教えを通じて、人間として
“生きる”ことの真の意味を探究

新しい時代のニーズに応え、
積極的な国際文化交流活動を展開

ゼミを中心に、教員と学生が
一体となって学び合う環境を整備

[講義紹介]

真宗入門

親鸞の教えや生涯を中心に真宗学の基本を学び、より専門的な学びへの基礎を築く。

真宗学概論A1・A2

親鸞教義の全体像を把握することをめざす。

真宗聖典学

真宗の諸聖典を精読することで、聖典そのものを読み解く力を身につける。

仏教領域 インドに発祥し世界の諸地域に及ぶ仏教の多様な展開を学修

アジア各地の仏教の思想と文化を
幅広い視点から追究

人々を魅了し続けた「仏の教え」を
本物の資料をとおして学ぶ

体験重視の実習科目を組み込んだ
カリキュラム編成

[講義紹介]

仏教学講読

サンスクリット語、チベット語、漢語などで伝えられる仏教文献を原文から丁寧に読み解く。

仏教学概論A1・A2

仏教の基礎知識を確認するとともに、より高度な知識を習得する。

仏教文化学

仏教が世界各地の文化に与えた影響を学び、仏教文化研究の基礎となる知識を修得する。

社会応用領域 社会課題に取り組み新たな価値を創造

真宗・仏教の学びを基盤とし、
社会課題に取り組む

国際社会、福祉・医療、文化等を
キーワードに学ぶ

PBLを活用したアクティブな学び

[講義紹介]

社会調査概説

データの収集・分析やフィールドワークに必要な社会調査に関する基礎的な知識や方法を学ぶ。

「社会と仏教」概論A・B

仏教の視点を通して現代の社会課題を学び、その解決へと導くための知識や思考を修得する。

福祉と仏教A

医療現場の最前線で活躍する宗教者による講義。医学だけでは救いきれない苦しみに、どう向き合うのか考究する。

※在学中の学びの変遷に対応するため、一定の基準(成績等)を満たす場合、別の領域へ移る転領域を認めています。



Seminars ゼミ紹介

真宗領域 内手 弘太 ゼミ

歴代宗主が継承する教え

蓮如教学とその思想的背景を紐解く

親鸞聖人以降の歴代宗主がどのように教えを継承したかを学びたく「真宗教学史」を専攻しています。参考文献を通じて教学や伝道方法を調べるなかで、多角的な考察力と客観的な文章構成力が養われました。3年間で学んできた浄土真宗の流れや他宗教との違いを基盤に、教学のなかでも特に多様な解釈のある蓮如上人に焦点を当て、研究の幅を広げていきたいと思っています。



立花 理紗さん

真宗学科 4年生
(長崎県立口加高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 蓮如上人の『御文章』を読む
- 和語聖教を中心に親鸞思想を考える
- 親鸞教義の普遍性と特殊性
- 覚如教学と親鸞教義

仏教領域 西山 良慶 ゼミ

現代に響く仏教思想

井上円了の思想から仏教改良の意義を探る

低年次に「一切皆苦」という仏教用語を研究し、仏教は今を生きる私たちの救いになると確信しました。現在は、哲学や教育学など幅広い分野に精通した井上円了の思想を研究しています。京都の寺院を訪ねて見聞を深める研修や、他のゼミ生の多様な研究テーマに触れる毎日は発見の連続です。新たな知識を吸収するたびに、仏教がもつ歴史の深さと幅広さを実感しています。



小野嶋 莉璃奈さん

仏教学科 3年生
(山口県立下松高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 仏教文化の諸相に学ぶ
- 日本仏教探究
- インド学・仏教学の諸問題
- 東アジアにおける仏教思想・文化の諸問題

社会応用領域

現代の諸課題に向き合う

仏教・真宗の学びを基盤に現代社会の諸課題に取り組む

新たに設置する「社会応用領域」は、真宗学・仏教学の学びを基盤として、PBL (Project-based Learning: 問題解決型学習) 等アクティブな学びの手法を用いながら、「国際社会」「福祉・医療」「文化」という3つの観点から現代社会の課題に向き合い、新たな価値創造をめざします。



志賀 浄邦教授

[専門分野]
仏教論理学、仏教思想、インド哲学



学びのキーワード

平和・紛争、宗教間対話、医療、観光、メディア、芸能、教育、ボランティア、ジェンダー、SDGs、エンゲージド・ブディズム など



哲学者たちの思考の軌跡と、自らの考えを
論理的に表現する方法を幅広く学ぶ

Focus 学びのポイント

あらゆる偏見・独断・権威から
自由になって考える

人は何を求め、考えてきたかを
先人から幅広く学ぶ

社会で活かせる物事の考え方や
表現力を身につける

対話を通じて人と人のつながりを
深める力を養う

[講義紹介]

哲学概論

哲学の多様な諸問題について、
自分自身で考察する力を養う。

倫理学概論

倫理学の重要な諸問題を取り上げ、
さまざまな角度から理論的に考察する。

社会哲学

社会思想史を、時代背景と政治史との
連関のなかで理解することをめざす。

美学概説

美と芸術をめぐる思想を考察し、
その思想を現代において深める機会を
提供する。

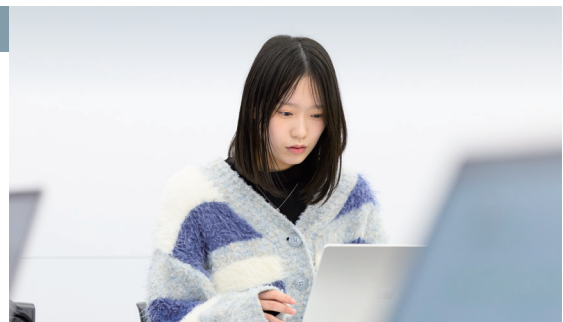
Seminars ゼミ紹介

哲学科 哲学専攻 田中 龍山 ゼミ

社会における正義

哲学的対話を通じて正義を問い直す

「正義とは何か」という問いは、人間社会が常に向き合ってきた本質的な課題です。プラトンの『ソクラテスの弁明』を読んだことをきっかけに、この問いへの関心を深めてきました。ゼミでは各自の研究発表に対して批判や疑問をぶつけ合い、多様な視点から考える力を養っています。こうした対話を通じて磨いた哲学的思考を活かし、卒業論文では、プラトンの理想国家を批判的に考察しながら、現代における正義のあり方を探究しています。



荒木 萌笑さん

哲学科 哲学専攻 4年生
(三重県立松阪高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 古代哲学—哲学のはじまり—
- 中世哲学—神との対話—
- 近世哲学—理性と経験—
- 現代哲学—言語と環境—
- 科学哲学—哲学と科学の方法論的差異—
- 芸術哲学—美の意味を考える—
- 宗教哲学—神という謎—
- 政治哲学—社会契約説の系譜—
- 生命倫理学—動物に生存権はあるのか—
- 現代フランス思想における主体性の問題
- 現代認識論における知識の基礎づけの問題
- 現代リベラリズム(自由主義)とその批判



総合的な人間学を研究のベースとし、
教育学を専門的に学修・研究する

Focus 学びのポイント

変化の激しい時代における
教育のあり方を多角的に追究

社会と個人の両面から教育について
専門的に学ぶ

学校や社会教育施設なども含めた
さまざまなフィールドでの実践を重視

小学校[※]・中学校・高等学校教員などの
幅広い資格取得に対応

※小学校教諭免許状取得支援制度による取得

[講義紹介]

教育学演習 I A・I B

1・2年次での学びにもとづき、指導
教員のもとで各自が卒業論文で扱う
研究テーマを探究していく。

教育学基礎演習 II A・II B

教育について深く学び研究するため
の基礎的な力を身につける。

人間科学概論

人の心の仕組みや機能について教育や
社会とのかかわりを考えながら探究し
ていく。

比較教育学

諸外国の教育実態から教育の普遍性
や多様性を見いだす。

Seminars ゼミ紹介

哲学科 教育学専攻 出羽 孝行 ゼミ

子どもの主体意識の低下

比較教育学の視点から市民教育のあり方を問う

大学での学びを通じて、日本人は祖国への愛着や畏敬の念が他国より少ないのではと感じるようになりました。その要因を市民教育のあり方に見だし、比較教育学の視点から「シティズンシップ教育」について研究しています。「国民性」や「愛国心」「主体性」という認識のもと、アメリカと日本の教育を比較し、教育が個人の主体的な権利意識や改革指導者としての効力感の涵養にどの程度の影響を及ぼすのかを考察していきます。



細井 倫人さん

哲学科 教育学専攻 3年生
(京都府 京都外大西高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 教育についての歴史的理解
- 学校外の場における学び
- ジェンダーと教育の関連
- 日韓の教育比較
- 海外の教育実践について
- 格差と教育の関連
- 記憶の個人差
- 青年期の人格形成についての社会学的考察
- ステレオタイプに関する社会学的考察
- 新たな教育方法に関する効果の研究



従来の研究に学びつつ、自分なりの問いから歴史事実を究明し、
未来を造る主体として今を生きる

Focus 学びのポイント

新しい歴史像の構築と
人間性の探究

世界史的な視野をもち、
日本の歴史を考察

古代・中世・近世・近代・現代の
5つの切り口

学内外の史料や史跡などを
最大限に活用

[講義紹介]

日本史学基礎演習ⅠA・ⅠB

日本史学研究の基礎的な知識・方法
などを修得する。

古文書学入門

歴史事実を証明するための文書の読
解の基礎を学ぶ。

日本史学特殊講義

各分野の専門的研究から方法・史料
について学ぶ。

日本史学演習Ⅰ

3年生のゼミで、各人が設定した課
題について報告する。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 日本史学専攻 山本 浩樹 ゼミ

歴史の再解釈と史実の探究

先行研究と史料の往還で、歴史の真実に迫る

日本史学の研究に欠かせない「史料」も、前提知識なしでは文字の羅列にすぎ
ません。先行研究と、古文書などの史料を往還し、限られた時間で必要な情報
を取捨選択していくことが重要です。自分の名前の由来でもある戦国武将・真
田昌幸に影響を受け、現在は「信濃真田氏の家臣団編成」について、昌幸の長男・
信之の領国統治時代を論じています。史料を批判し、先行研究を分析するなか
で、日本史学以外にも役立つ論理的思考力が鍛えられました。



中谷 昌幸さん

歴史学科 日本史学専攻 4年生
(和歌山県立向陽高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 古代日本の疫病と貢進
- 平安貴族の対外意識
- 源義朝と関東武士団の関係
- 南北朝初期における所務沙汰の特質
- 近世初期の久我家と源氏長者
- 近世壱田における湖上権益
- 近藤勇における内憂外患と攘夷論
- 明治・大正期におけるアイヌ民族の信仰
- 濱口雄幸の政党政治観
- 婦人参政権獲得運動と治安警察法

※過去の卒業論文タイトルより



新たにコース制を導入し、漢字文化圏から地中海地域・イスラーム文化圏までユーラシアの広域な歴史・文化を学び、研究を深める

ユーラシア西部地域史コース

地中海地域（北アフリカを含む）、西アジア、中央アジアなどの地域を対象として学ぶ

ユーラシア東部地域史コース

中国を中心とする東アジアと、モンゴルをはじめとする内陸アジアなどの地域を対象として学ぶ

Focus 学びのポイント

東アジアから地中海地域・イスラーム文化圏まで
広大な地域の歴史を研究

諸外国の研究機関と学術交流や
留学を活発に展開

[講義紹介]

東洋史学基礎演習Ⅰ

「史料を読む」という研究の基礎作業に取り組みながら、東洋史学研究の基礎を学ぶ。

東洋史学講読

各言語で書かれた史料や研究を読みながら、歴史や文化などの理解を深める。ペルシャ語、トルコ語、アラビア語、中国古典文・漢文、英語から選択する。

東洋史概説Ⅰ

中国世界、さらには東部ユーラシア世界という視点から中国史を見直す。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 東洋史学専攻 近藤 真美 ゼミ

対外政策の歴史的背景

アイユーブ朝の対外政策、特にイエメン遠征について研究しています。これまでの研究によって示されていることを鵜呑みにするのではなく、自分で実際に史料を読んでみて、そこから考える。これがとても大切だと実感しています。大変ですが、取り組み甲斐があります。

坊之園 凧海さん

歴史学科 東洋史学専攻 4年生
(大阪府 大阪教育大学附属高等学校平野校舎 出身)



歴史学科 東洋史学専攻 岩尾 一史 ゼミ

唐代女性の地位

「唐代の御史と酷吏」をテーマに、唐代唯一の女性皇帝として君臨した、則天武后について研究しています。書物や論文を読み解くなかで、遠い昔に思える唐代にも現代と似た文化や思想があるとわかりました。こうした新たな発見が、歴史を探究する醍醐味です。

板橋 紗英さん

歴史学科 東洋史学専攻 3年生
(大阪府立貝塚高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例 [ユーラシア西部地域史コース]

- ヴィジャヤナガル王国トゥルヴァ朝期のナーヤカについて
- ガージャール朝期における女性のコム参詣
- マムルーク朝後期におけるワクフの活用と宗教施設について

※過去の卒業論文タイトルより

ゼミで扱う学びの一例 [ユーラシア東部地域史コース]

- 前漢末の終末意識と王莽の禅譲
- 曹操とその時代
- 隋唐時代におけるソグド人とその活動について

※過去の卒業論文タイトルより



仏教の歴史を知ることによって人間とは？ 仏教とは？
という本質的な問いを探究する

Focus 学びのポイント

仏教をひもとき、現代・将来における役割と
可能性を考える

政治・思想・言語・美術など、
多角的なアプローチで理解する

京都の地の利を最大限に活かした
調査・研究活動を展開

広い視野で“自分らしい生き方”を
考えられる教養と人格を育成

[講義紹介]

仏教史学入門

仏教史を学んでいくうえでの基本的な
知識を修得する。

仏教美術史

仏画・仏像・寺院建築などの観方につ
いて学ぶ。

西域仏教史

インドで成立した仏教が中央アジアに
展開していく過程を学ぶ。

真宗史

親鸞から現代に至るまでの浄土真宗の
歩みを歴史的に考察する。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 仏教史学専攻 齋藤 信行 ゼミ

宗教と現代社会の関わり

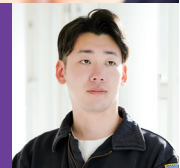
地域に根ざす信仰のかたちをひも解く

僧侶の資格をもつがゆえの偏った見方ではなく、歴史的観点から「学問としての仏教」を学び直したいと考え、このゼミを選びました。現在は、私が育った大ヶ塚御坊顕證寺の成立と展開をテーマに、村民の真宗信仰に焦点を当てて研究しています。成立の背景からどのように村民から信仰されてきたのか。龍谷大学の強みである「浄土真宗」の学問的知見を活かし、自分のルーツでもある寺院の歴史をひも解くことにやりがいと喜びを感じています。



岩田 眞隆さん

歴史学科 仏教史学専攻 4年生
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- 僧尼令からみる日本古代の社会と仏教
— 飲酒条を手がかりに —
- 行基の思想基盤について
- 蓮如の教説と一向一揆
- 池田光政の宗教政策と備前法華
- 本願寺教団の護法論とその展開— 島地黙雷を中心に —
- 井上秀天の近代天皇制への視座— 『新仏教』誌上の論説を中心に —
- 梁武帝「断酒肉食」にみる六朝士大夫の仏教信仰
- 舍衛城の神変に関する一考察
— 千仏化現表現を中心に —
- 『三界経』とタイ仏教王権
- アンベードカルと不可触民解放運動

※過去の卒業論文タイトルより



現代まで引き継がれてきた文化遺産を分析・研究し、
将来に残して活用する技術と方法を実践的に修得する

Focus 学びのポイント

「モノ(有形文化遺産)」「ワザ(無形文化遺産)」
を扱う総合的な文化遺産学

「モノ・ワザ」から
「学ぶ」「残す」「活かす」「体感する」

考古学・美術史・文化財科学・無形文化遺産学の
4分野

遺跡や寺院などのフィールドワークをとおして
実践的に学ぶ

[講義紹介]

文化遺産学概論

文化遺産とは何か? その特徴と守り・伝える意義を学ぶ。

文化遺産学演習Ⅰ

考古学・美術史・保存修復学・文化財行政学の4分野のゼミから研究テーマの学びを深める。

考古学実習

遺跡や出土品から考古学の実践的技術と分析方法を学ぶ。

文化財実習

文化遺産学に用いる調査機器やソフトのつかい方を実践で学ぶ。

Seminars ゼミ紹介

歴史学科 文化遺産学専攻 神田 雅章 ゼミ

美術作品の歴史的意義

美術史を読み解き、作品の「真の価値」を考察する

美術史は、作品の製作背景や他作品との違いを検証し、その本質的な価値を問う直す学問です。書籍や展覧会で見たことのある著名な作品であっても、さまざまな人がその価値について疑問を投げかけ、答えを求めて論じ続けています。ゼミ活動を通じて、そうした美術史の世界に触れ、あらゆる物事を多角的に考察できるようになりました。多様な人々の議論によって自分に新たな視点が生まれることが、美術史を学ぶ醍醐味かもしれません。



昆 成見さん

歴史学科 文化遺産学専攻 4年生
(千葉県立安房高等学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- サイエンスの力を応用して文化遺産を守り・伝える
- 考古学資料から読み解く歴史像
- 美術作品をとおして日本文化を考える
- 文化財保護の制度と方法を考える

※文化遺産学が関係する分野は多岐にわたります。これは各ゼミ担当教員が学生と取り組んでいる基本分野の一例です。



豊かな言語感覚や感受性、論理的思考能力を磨き、
「ことばのプロ」を育成する

Focus 学びのポイント

学ぶ目的や興味にあわせて選べる4コースを開設

- 古典文学コース** 江戸時代までの古典文学作品を探究する。
- 近代文学コース** 明治時代から現代までの文学作品を探究する。
- 情報出版学コース** 日本文学や演劇のなかの情報・出版文化を探究する。
- 日本語学コース** 現代語や過去の時代の日本語の特徴を探究する。

多彩な授業を組み合わせ、
複眼的な思考を鍛錬

中学校・高等学校教員、出版・広告業など、
将来に備えた実践的な授業も開講

国宝・重要文化財などの古典籍に
親しみながら学修・研究できる

[講義紹介]

日本語日本文学基礎演習 B

日本近代文学研究の方法について学ぶ。

古典文学特殊講義 (D) A

古典文学の写本を読む。

情報出版学概論 B

江戸時代後期の本と芸能を素材に、情
報の広がりについて学ぶ。

日本語学特殊講義 (B) A

日本語学史のなかでも、特に外国人による
日本語研究について学ぶ。

Seminars ゼミ紹介

日本語日本文学科 内田 智子ゼミ

無自覚なことば遣いの考察

膨大な用例を分析し、ことばの歴史をたどる

明治・大正期の文法書と現代日本語文法を比較し、文法概念の変遷について研究しています。日常生活に不可欠な「数詞」をテーマに調査した際には、当時の複雑な分類や単語の発音の現代との違いに驚きました。用例を大量に集めて分析するプロセスは、文系ながら理系的でもあります。データ分析をとおしてことばへの関心がさらに高まり、何気ないことばに対しても「なぜこの表現なのか」と問いかけるようになりました。日本語の奥深さに魅了されています。



王家澤さん

日本語日本文学科 3年生
(中国 出身)

ゼミで扱う学びの一例

- 『新古今和歌集』の恋歌・雑歌を読む
- 『源氏物語』薄雲巻の研究
- 佐藤春夫『田園の憂鬱』を読む
- 「本」と「ハナシ」の文化史
- 歌舞伎と近世・近代の情報・出版文化について考える
- 近代の文法書を読む



実践的な英語力を身につけ、
言語学、文学、文化を専門的に学ぶ

Focus 学びのポイント

英米文学作品を読み解くことをとおして、分析力・議論する力を養う

英語をとおして、ことばの真相に迫る力を育成

実践的な英語コミュニケーション力を修得

交換留学制度が充実

英文学コース

小説や詩などさまざまなテキストを題材にし、読解力や批判力を身につける。

米文学コース

テキストの背景を学び、異文化理解の基礎となる教養を身につける。

英語学コース

英語の音声・語彙・文法・談話など言語的特質を多角的に探究する。

英米文化コース

Investigating Culture in an All-English Environment.

[講義紹介]

英語英米文学基礎演習

3年次のコース選択に向けて、1・2年次に4コースのすべての学びを半期ずつ経験する導入的な基幹科目。

Oral Communication III

An opportunity to develop high-level English language skills for interpersonal communication, debate and public speaking.

英米文学講読

英語圏のテキストや資料を読む際に求められる読解力や批判力、および用語や視点の獲得をめざす。

英語学特殊講義

英語学の専門知識をもとに考察力・分析力を深める。

Seminars ゼミ紹介

英語英米文学科 早瀬 尚子 ゼミ

ことばの背後にある「認知メカニズム」

認知の視点から思考の本質に迫り、言語をとらえ直す

早瀬ゼミでは、認知言語学を基盤として「ことばの背後にある認知メカニズム」を多角的に探究しています。前置詞の使い分けを空間認知から見直すほか、感情表現の日英対照や類義表現比較などを通じて、本質的な言語理解を深め、言語教育にも応用できる力をグループ討議を通じて養います。私は合意形成に向けた対話場面において、概念メタファーがどのように使用され機能するかを認知的観点から分析し、ことばが認識をどう形づくるか検討中です。



藤本 恭平さん

英語英米文学科 3年生
(奈良県 奈良女子大学附属中等教育学校 出身)



ゼミで扱う学びの一例

- ことばの意味とコミュニケーション
- America and Immigration
- American Novels and Poems in the 20th Century
- The Kings and Queens of Britain
- ことばと文化における捉え方
- The Development of British Children
- Disney and the American Movie Industry
- Differences Between British and American Culture
- イギリス小説、詩のメッセージに含まれる現代的な意味を探る

NECソリューション
イノベータ株式会社
ソリューションサービス事業ライン 勤務

コミュニケーション力で
企業を支えるSEをめざす

インフラ分野でオンプレミスやクラウドを扱うSEとして、システムの基盤となるサーバ構築を行っています。SEは1人で黙々と作業をこなすと思われがちですが、実際にはお客さまにシステム説明を行うなど、人とかかわる機会が多くあります。文学部の学びとは直結しない分野ながら、在学中に培った情報収集力やコミュニケーション力を活かして日々の業務に取り組んでいます。また、近年発展が凄まじい生成AI分野の業務にも携わり、生成AIを中心とした最新技術のキャッチアップのために、2025年には1週間のアメリカ出張にも行かせていただきました。変化の激しい業界で活躍するため、大学で培った学ぶ姿勢を土台とし、自己研鑽に努めています。

奥原 琉貴さん

哲学科 教育学専攻 2022年卒業
(大阪府立千里青雲高等学校 出身)

Life after G



インフラ分野のSEとして、企業様のシステム基盤を構築しています。近年発展が凄まじい生成AIに関連した業務にも携わっています。

My Background



大学1年生

憧れの京都で送る大学生活に夢と希望をもって、歴史ある龍谷大学に入学。さまざまな出会いのなかで、視野が広がりました。



大学2年生

英語力向上を図るため、春休みを利用してカナダのトロントへ留学。当時から人とコミュニケーションを取るのが大好きでした。



大学3年生

コロナ禍に直面し、学業に専念した1年でした。教職課程と就職活動の両立をめざし、早い時期から就活対策を行いました。



大学4年生

コロナ禍で友人と顔を合わせる機会も減っていましたが、卒業式は対面で挙行了られたので良かったです。

株式会社京都銀行 勤務

伝える力を活かし、
お客さまへ寄り添う提案を

投資信託や保険、債券など、金融商品の販売を行う個人営業として、お客さま一人ひとりに寄り添った提案に努めています。文学部で日本語学や教職課程を履修して培った「相手にわかりやすく伝える力」は、複雑な金融商品の説明においても大きな武器になっています。在学中は、書道部の運営や学生自治の活動にも注力しました。特に、まだコロナ禍だった3年次には、同期とオンライン会議を計画し、学生部と連携を取りながら積極的に行動しました。主体的に動くことの重要性を肌で感じる貴重な経験でした。「自ら考え、周囲を巻き込む」姿勢は、顧客への提案や後輩の育成にも役立っています。現在は提案の幅を広げたく、CFPの資格取得をめざしています。

森本 彩日さん

日本語日本文学科 2023年卒業
(京都府 龍谷大学付属平安高等学校 出身)

raduation



ひたすら辞書をひき、ことばの成り立ちの変遷を調べたゼミでの経験は、私の土台です。目の前の仕事と真剣に向き合い、一つひとつ丁寧に進めています。

My Background



大学1年生

所属していた書道部の夏合宿に参加。滋賀県の合宿所でおしゃべりしながら楽しく活動し、メンバーと心を通わせて深夜まで練習しました。



大学2年生

コロナ禍直前に旅をしたものの、6月まで春休みが続いてアルバイト三昧。思うように友人と会えないので、Zoomで会話していました。



大学3年生

活動制限が多いなか、皆が揃って練習会に参加。オンライン練習やスランプなどを乗り越え、対面で練習できたときの喜びは格別でした。



大学4年生

マスクを手放せない学生生活ながら、協力し合って卒業式を開催。一生の思い出になりました。社会人になった今も交流は続いています。

Careers

文学部の資格・就職

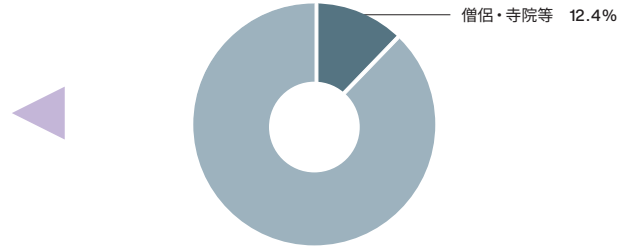
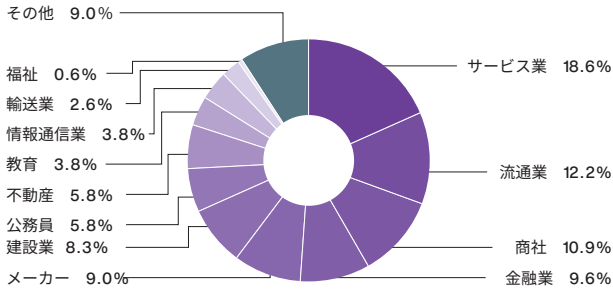
人文学の深い知識と伝達する力を学修することで、
多彩な進路が広がる

「ことば」に深くかかわる人文学を学ぶ文学部は、まずテキストの正確な読解にも
とづいた人文学の幅広い知識を育成し、その知識をもとに課題の探究、発見、追究、

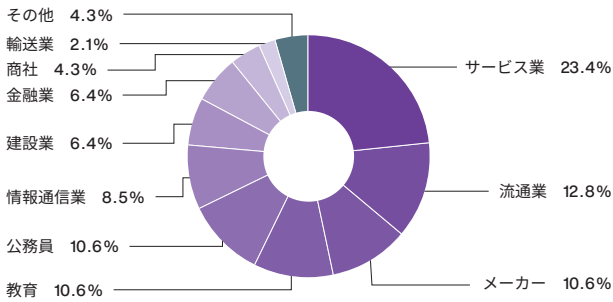
就職状況（2025年3月卒業生）

仏教学科

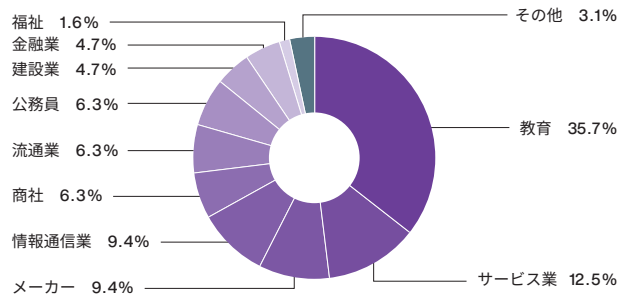
僧侶・寺院等以外



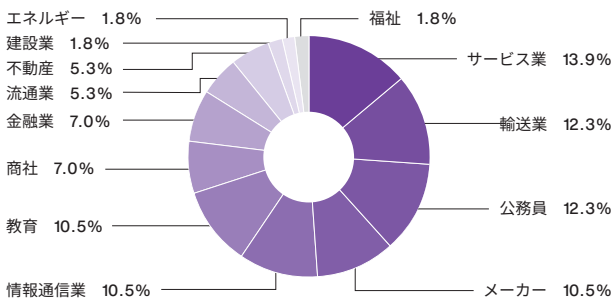
哲学科 哲学専攻



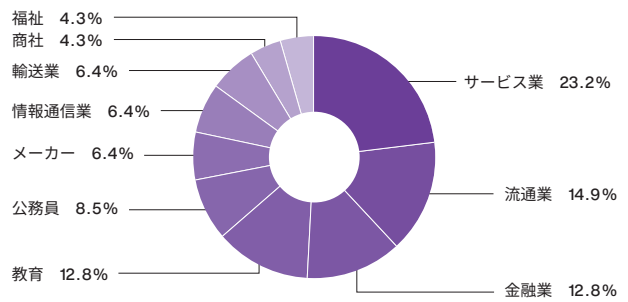
哲学科 教育学専攻



歴史学科 日本史学専攻



歴史学科 東洋史学専攻



資格取得状況

15種類の資格取得のための課程を設置

文学部には15種類の資格取得のための課程があります。4年間で資格を取得するためには、卒業後のビジョンに応じた資格を適切に選択し、綿密な履修計画を立てることが大切です。また、強い意志で履修に臨む学生に向けた支援制度も整えています。

〔諸課程〕

- 教職課程 中学校教諭一種免許状 (● 宗教 ● 社会 ● 国語 ● 英語)
- 高等学校教諭一種免許状 (● 宗教 ● 地理歴史 ● 公民 ● 国語 ● 英語)
- 学校図書館司書教諭課程
- 図書館司書課程
- 博物館学芸員課程
- 社会福祉主事課程
- 本願寺派学階課程
- 本願寺派教師資格課程

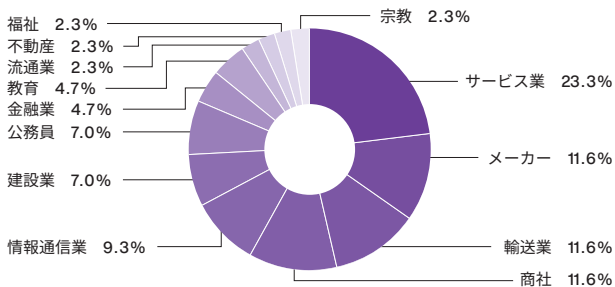
※ 学科・専攻により取得可能な免許・資格が異なります。

解決という一連のプロセスを達成する能力を身につけます。4年間を通じて、必修科目として演習(ゼミ)を配置し、「読む力」「調べる力」「考える力」「書く力・発信する力」「議論する力」を身につけるのです。また、ことばを正確に理解し、論理的文章を書くと同時に、他者にもわかりやすく伝達するための方法を修得します。これらの学びで身につけた問題解決法や論理的思考、コミュニケーション能力などは、社会での活躍に資する力となり、多種多様な進路が広がります。

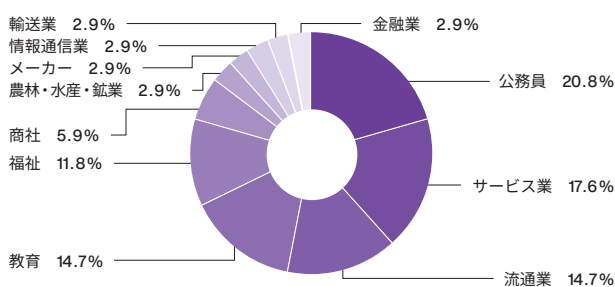
資格・
就職情報



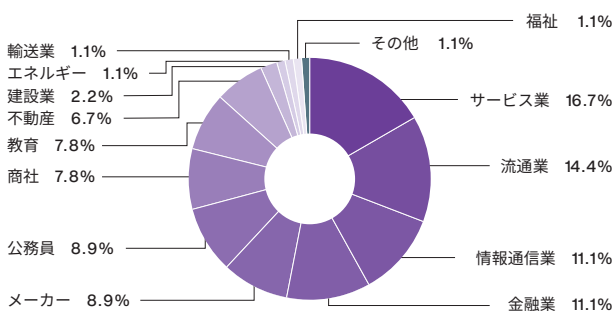
歴史学科 仏教史学専攻



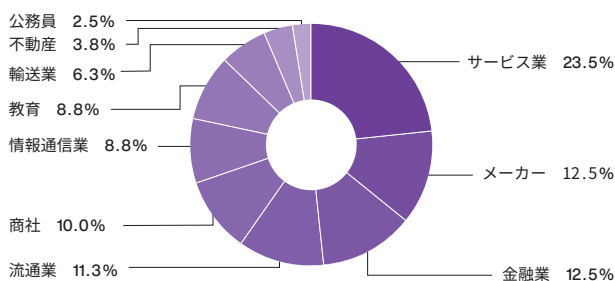
歴史学科 文化遺産学専攻



日本語日本文学科



英語英米文学科



[主な就職先]

学科・専攻を問わず、幅広い業種への就職実績があります。

【建設業】

- 積水ハウス株式会社
- 大和ハウス工業株式会社

【メーカー】

- タカスタンダード株式会社
- 山崎製パン株式会社
- 株式会社村田製作所

【エネルギー】

- 関西電力株式会社

【輸送業】

- 西濃運輸株式会社
- 西日本旅客鉄道株式会社 (JR西日本)
- 東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)

【流通業】

- 株式会社ニトリ

【金融業】

- 株式会社京都銀行
- 三井住友信託銀行株式会社
- 住友生命保険相互会社

【サービス業】

- 日本郵便株式会社
- 四季株式会社
- 株式会社JTB

【教育】

- 大阪府教育委員会
- 京都府教育委員会

【公務員】

- 国税庁
- 京都市役所 など

※主な就職先は業種順に記載



関西電力株式会社 内定

縁の下の力持ちとして、インフラを支える

日本人の根本にある仏教思想を学びました。面接では仏教史学という特殊な学びに興味を示していただくことが多く、教授との対話で培った知識が大いに役立ちました。私たちの暮らしに不可欠な電気を支える「縁の下の力持ち」として、社会に貢献していきたいです。

西田 莉玖さん

仏教史学 4年生
(奈良県立高円高等学校 出身)



住商グローバル・ ロジスティクス株式会社 内定

ベストを追求し、多くの人を幸せに

教育学の学びとボランティア活動で培ったコミュニケーション力は、面接やグループワークでの強みとなりました。内定先を選んだのは、正解の手段は何かを考え続けることができる仕事だと感じたからです。物流方法や業務効率化など、常にベストを追求していきます。

逸原 貫太郎さん

哲学科 教育学専攻 4年生
(滋賀県立草津東高等学校 出身)



株式会社共立メンテナンス 内定

相手視点の思考力が将来の糧に

仲間と協力してサークルを設立し、統率力と相手視点の思考力を養いました。これらの力は就職活動にも活かされ、自分に何が求められているかを考え、行動に移すことができました。今後も相手のニーズを汲み取り、心に寄り添った提案を心がけたいと思います。

伊良皆 環希さん

日本語日本文学科 4年生
(岡山県 岡山龍谷高等学校 出身)

京都大宮キャンパス[※]

京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1
Tel 075-343-3317 let@ad.ryukoku.ac.jp

大阪、奈良、兵庫から好アクセス

JR「大阪」駅 → 約38分
JR「天王寺」駅 → 約52分
近鉄「奈良」駅 → 約54分
JR「三ノ宮」駅 → 約60分

※2027年4月、「大宮キャンパス」より名称変更。

龍谷大学のブランドストーリー

世界は驚くべきスピードでその姿を変え、
将来の予測が難しい時代となっています。
いま必要なことは、「学び」を深めること。
「つながり」に目覚めること。
龍谷大学は「まごころある市民」を育てていきます。

自らを見つめ直し、他者への思いやりを発動する。
自分だけでなく他の誰かの安らぎのために行動する。
それが、私たちが大切にしている
「自省利他」であり、「まごころ」です。
その心があれば、激しい変化の中でも本質を見極め、
変革への一步を踏み出すことができるはず。

探究心が沸き上がる喜びを原動力に、
より良い社会を構築するために。
新しい価値を創造するために。

私たちは、大学を「心」と「知」と「行動」の拠点として、
地球規模で広がる課題に立ち向かいます。
1639年の創立以来、貫いてきた進取の精神、
そして日々積み上げる学びをもとに、様々な人と手を携えながら、
誠実に地域や社会の発展に力を尽くしていきます。

豊かな多様性の中で、心と心がつながる。人と人が支え合う。
その先に、社会の新しい可能性が生まれていく。
龍谷大学が動く。未来が輝く。

You, Unlimited

龍谷大学 文学部

あらゆる「壁」や「違い」を乗り越えるために、「まごころ」を持ち、
「人間・社会・自然」について深く考える人を育む。
それが、龍谷大学の教育のあり方です。

自分自身を省み、人の痛みに感応して、
他者を受け容れ理解する力を持つ。
人類が直面するリアルな課題と真摯に向き合う。
そして様々な学びを通じて本質を見極める目を養い、
自らの可能性を広げていきます。



<https://www.let.ryukoku.ac.jp>

※掲載の学年、所属は取材時のものです。

2026年5月発行